

株式会社 JVC ケンウッド

2024年1月18日

新型の通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」がNTTコミュニケーションズの映像分散管理プラットフォームサービス「モビスキャ」と、同サービスを活用した「AI道路工事検知ソリューション（仮称）」に採用

株式会社 JVC ケンウッドは、新型の通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」がこのたび、NTT コミュニケーションズ株式会社（以下、「NTT コミュニケーションズ」）が展開する映像分散管理プラットフォームサービス「モビスキャ」と、同サービスを活用した「AI 道路工事検知ソリューション（仮称）」に採用されましたので、お知らせします。

当社は、同サービス・同ソリューションに対して、新型の通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」を提供。本機が、従来以上に高い AI 映像処理能力を持ち、同ソリューションで求められるデータ収集・生成の要件を満たすアプリケーションの実装を実現したことで採用に至りました。また、当社のエッジ AI システムの開発支援により、短期間・低コストでシステム構築をサポートできる点も評価されました。

NTT コミュニケーションズの「AI 道路工事検知ソリューション（仮称）」は、タクシーやバスに設置された通信型ドライブレコーダーのエッジ AI 映像処理により、道路工事現場と思われる映像や位置情報を取得。同社の映像分散管理サービス「モビスキャ」にアップロードされ、映像を解析することで、ガス管の損傷が発生する可能性のある道路工事現場を検知します。インフラ保全の一環として行われるガス管などの巡回を、人の目から映像データに切り替えることで、業務の効率化やコスト削減の実現を目指します。



＜映像分散管理サービス「モビスキャ」を活用した「AI 道路工事検知ソリューション（仮称）」のイメージ＞

当社は今後も、通信型ドライブレコーダーを軸に、幅広いモビリティ分野に向けてドライブレコーダーの映像や位置情報などのデータを活用したサービスやシステムの構築、および業務効率化やコスト削減などに貢献する IoT・AI ベースのテレマティクスソリューションを提案します。

＜通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」の概要＞

このたび採用された新型の通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」は、当社独自の映像・光学技術を生かし、高画質を実現するとともに、通信機能により、車両の位置情報や映像を管理者へ送信します。また新たに、従来以上の AI 映像処理を可能とする高いグレードの SoC（System on a Chip：高性能デジタル半導体）を採用しており、高性能な AI アプリケーションの実装を可能とします。当社開発の SDK（Software Development Kit：ソフトウェア開発キット）の提供とともにエッジ AI システムの開発を支援します。



＜通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」＞

なお、「第 16 回 オートモーティブ ワールド -クルマの先端技術 展-」の当社ブースで、通信型ドライブレコーダー「STZ-DR20J」を初展示し、「AI 道路工事検知ソリューション」の活用事例についても紹介します。

<参考情報>

- ・NTT コミュニケーションズ 関連ニュースリリース：

<https://www.ntt.com/about-us/press-releases/news/article/2024/0112.html>

- ・当社 関連ニュースリリース：

「第 16 回 オートモーティブ ワールド -クルマの先端技術 展-」 JVC ケンウッドブースのご案内

<https://www.jvckenwood.com/jp/press/2024/0118-02.html>

<商標について>

- ・「モビスキャ」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標または登録商標です。
- ・記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本件に関するお問い合わせ先

【営業窓口】 株式会社JVCケンウッド テレマティクスサービス事業部 企画営業2部

E-mail：info_dxps2@jvckenwood.com

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目12番地

本資料の内容は発表時のものです。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

www.jvckenwood.com